桐生市立図書館整備基本構想・基本計画
WORKSHOP NEWSLETTER

これからの桐生市立図書館を考える





第１回 ワークショップ

開催日	2026.10.10（土）
時間	9:30-12:00
場所	桐生市教育センター
参加人数	22名

現在、桐生市では新しい図書館の整備に向けて、
市民の皆様の意見を反映するためのワークショップを開催しました。
今回のワークショップでは、まず桐生市の「今」と図書館を取り巻く「今」について
講師によるレクチャーを行い、そのうえで、新しい図書館が桐生市にとってどのような役割を果たし、
どのような価値を生み出す場所となるのかを、市民の皆様とともに考えました。
「桐生市にとって図書館とはどのような存在なのか」
「新しい図書館ではどのような活動ができ、何が生まれるとよいのか」
そして「図書館ができることで桐生市がどのようなまちになっていくとよいか、
そのためにはどのような手段が考えられるか」をテーマに、
参加者や傍聴者の皆様による活発な意見交換が行われました。
ここでは、ワークショップ当日の様子をご紹介します。

ワークショップの概要

10代から70代まで幅広い年代の方々22名が参加され、4～5名程度の5テーブルに分かれ、ワークを行いました。多くの傍聴者の方々も来ていただき、活発な議論が行われたにぎやかな会となりました。
「桐生市の「今」を知る」「桐生市のこれまでの「計画」を知る」「図書館の「今」を知る」というテーマで、現在のまちの状況から世界的な図書館の潮流まで、３つのレクチャーを行いました。アイスブレイクで「あなたにとっての図書館とは？」というテーマでそれぞれの図書館のイメージを共有した後、ワーク①では「桐生市にとっての図書館とは？」「桐生市の新しい図書館ではどんな活動がしたい？」を書き、模造紙にまとめ、ワーク②では「新しい図書館のビジョン・ミッション・コンセプトを考えよう！」というテーマで、グループごとにユニークなアイディアを提案していただきました。ワーク後には、アイスブレイクでの図書館イメージを振り返り、その変化も見られました。

01 レクチャー①「桐生市の「今」を知る」

桐生市役所 企画課移住定住推進室 課長補佐　馬場秀穂氏



市では人口減少が進む一方、まちなかでは歴史的な建物を活用した店舗や、移住者・若者による新しい店が生まれています。繊維産業や自然環境、歴史的なまちなみを生かし、移住定住、空き店舗の活用、保育園留学、学生との連携など、様々な取組が進められ、桐生市のまち全体が様々な盛り上がりを見せていることが紹介されました。

02 レクチャー②「桐生市のこれまでの「計画」を知る」

桐生市立図書館長（兼）図書館建設準備室長 尾上



現在の図書館は、建物や設備の老朽化、スペース不足など様々な課題を抱えています。新しい図書館の整備に向け、市民アンケートやワークショップ、関係団体への意見聴取などを行いながら、基本構想・基本計画の策定が進められていることが説明されました。

03 レクチャー③「図書館の「今」を知る」

図書館総合研究所代表　廣木響平氏



近年の図書館は、本の貸出だけでなく、まちの賑わいや多世代の居場所、他機能との融合等、多様な役割を持つようになっています。全国の事例を通じ、地域によって求められる図書館の形は様々であり、市民が関わりながら、そのまちに合った図書館を考えていくことの重要性について説明されました。

04 ワーク① 桐生市にとっての図書館とは？

市に必要な図書館と、やりたい活動の両面から検討



・「桐生市にとっての図書館とは？」「桐生市の新しい図書館ではどんな活動がしたい？」について、ひとりひとりが付箋に意見を書き、グループ内で共有しました。
・似た意見をグルーピングしながら必要な図書館像について議論しました

「桐生市にとっての図書館とは？」・・・・・・・・・・・ 付箋
「桐生市の新しい図書館ではどんな活動がしたい？」・・ 付箋

05 ワーク② ビジョン・ミッション・コンセプト

自分たちの考えを言葉にする



・ワーク①で考えたことをベースに、この図書館ができることで、桐生がどんなまちになってほしいかについて話し合いました。
・そのために図書館に必要なこと、そしてどのような図書館や施設にしたいかを、フレーズにまとめました。

ビジョン・・・どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」
ミッション・・そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」
コンセプト・・そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

06 グループ発表・共有

・内容は次頁より掲載

GROUP A

VISION
どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」

垣根のない、活気あふれるまち

MISSION
そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」

図書館が人とまちをつなぐ

CONCEPT
そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

人と情報の交差点





発表記録

「垣根のない笑顔あふれるまち」を目指し、外国人を含む誰もが利用しやすい図書館づくりを提案しました。図書館を人とまちをつなぐ拠点と位置づけ、公共交通の充実や学校・大学・行政との連携を通じて地域とのつながりを強化することが重要との意見が挙がりました。また、幅広い年代が利用しやすい環境を整え、移動図書館や出張図書館の要望や、飲食、長時間滞在が可能な居心地の良い空間づくり、公園との連携、イベントや展示の充実を図り、「人と情報の交差点」として新たな交流や活動が生まれる場になることを求めていました。

付箋に書かれた意見 / 全件掲載

※黄色・ピンクは付箋色
※付箋意見をそのまま掲載（読みにくいところは一部改変）

子ども
- 子供に特化した遊び場
- 子供がさわげる
- 子どもたちが思いきり体を動かして遊べる
- 桐生は児童館がないので、そういう部屋を1つほしい
- 子づれの方が安心して利用できる（声を出してもいいとか）
- 図書館の本を使って夏休みの自由研究会とか

学生
- カルチェラタン（フランス・パリ）の中心になって欲しい。
- カルチェラタン コクリコ坂 ジブリ映画 学生街
- 高校が周りにいっぱいある
- 中高生・大学生のためのアクティブラーニングスペース
- 大学と連携
- 大学と合体
- 学生が集まる 専用フロア？
- 学生街

連携・つながる
- 駅前の福祉会館と連携
- 困ったときに集まれる
- 外国籍の方向けに日本語教室
- 識字やインターネット利用などのセーフティネット
- しゃべれる
- ビジネスと情報をつなげる場
- 市民の知りたいをかなえてくれる場
- 市民が知り合いになる場所
- シルクホールのイベントと連携した特集コーナーとか
- お年寄が毎日行くところ
- 趣味が同じ人と集まって話せる

アクセス
- 子どもの送迎をして欲しい
- ひんぱんに出ている まゆバスで行きたい
- 行きやすい 入りやすい場所
- 駅から近い
- 桐生駅から近い
- 街の真ん中にある
- 買物の途中で寄れる
- 群大を駅近に

イベント
- ナイトミュージアム ならぬ ナイトライブラリ
- （多世代向け）ワークショップ
- 著者のトーク会
- イベントができるホール
- いつも何らかのイベント

使いやすさ
- グローカルな街と図書館
- 桐生織の室内にメディコスのようにパラソルが広い空間にスポット的にあると落ちつく
- ユニバーサルデザイン
- デジタルライブラリ
- 車イスやベビーカーでも通りやすい本棚の並び
- 中央図書館から遠い地域には出張図書館 お年寄りや子どもに
- 公共施設として市役所に行かなくてもすむように窓口を開設する
- 移動図書館 やりましょう
- 今より長い時間 開いている 図書館ですごせる
- 分館をもっと充実 または地域に特化させる

飲食
- カフェ等 飲食
- 飲食もできる
- カフェ、バー、バル？
- たべられる
- お酒が飲める

自然
- 図書館と新川公園がつながっている
- 自然の中にある
- 新川公園との一体感をさらに進める テラス席で読書とか
- 野外でも本を読みたい
- 屋内の散歩コース
- 川の景観を生かしたい（パリ・セーヌ川）
- 散歩できる

桐生らしさ
- 地元の文化に触れたい
- ファッションとハイテクの街をよみがえらせる
- 街づくりのイメージの中心
- 集客に 八木節まつりを生かす
- 水族館（桐生の強み）
- 文化都市

カテゴリなし
- 本と はくぶつかん の 収蔵品

GROUP B

VISION
どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」

生活が活性化され、
市内外の人が魅力を知り、
人々の流れが生まれる

MISSION
そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」

ひとりでも、皆でも多様なすごし方ができる
本を読む、勉強する快適な環境がある
多様な文化資源を提供する

CONCEPT
そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

アクティブ桐生市立図書館





発表記録

生活が活性化し、市外の人にも桐生の魅力が伝わることで、新たな人の流れが生まれるまちを目指すという意見が挙がりました。そのため、一人でも仲間とでも思い思いに過ごせる、一日中滞在したくなる図書館が求められました。読書や学習に集中できる空間に加え、桐生の文化や歴史に触れられる場を設けることで、市民の日常を豊かにするとともに、来訪者へ地域の魅力を発信することが期待されました。また、「アクティブ桐生市立図書館」をコンセプトに、図書館をまちの活性化を支える拠点として位置付けました。さらに、娯楽機能との連携も視野に入れながら、多世代が集い交流できる魅力的な場となることが期待されました。

付箋に書かれた意見 / 全件掲載

※黄色・ピンクは付箋色
※付箋意見をそのまま掲載（読みにくいところは一部改変）

いろんな文化
- バスターミナル
- 劇場
- 駐車場を広くしてほしい
- プラネタリウムは残してほしい（有料化して収益に）
- 映画館 復活
- ルール

本を読む
- カフェで本を読みたい
- 何かに没頭したい
- 多人数で勉強できる
- 読むスペースが広い

勉強
- より勉強が集中できる場所がほしい
- レファレンスの受付
- オススメの本を知れるような場所がほしい
- 勉強に集中
- ゆったり本が読みたい
- 多くのことを学べる場所
- 読みたい本がすぐ探せる

桐生の文化
- 桐生の歴史遺跡 展示コーナー
- 地場産
- 青空市場

ひとりでも皆でも多様なすごし方
- 子供が遊べる場所
- 一日過ごせる
- 通いやすい場所
- 家族で通える場所
- 市民が集う場所
- いろんな体験ができる
- J&L（ジェイトエル）

生活の活性化
- 市街地活性化

GROUP C

VISION
どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」

現在と過去の中継／心を豊かに

MISSION
そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」

世代を繋ぐ圧倒的集客力（企業をなぎ倒す）

CONCEPT
そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

革命のターミナルステーション





発表記録

おすすめの本を紹介し合う場や司書と相談しながら本を選べる環境を整えることで、本との新たな出会いや交流が生まれることが期待されました。また、桐生の織物をはじめとする地域文化を発信し、新たな文化や活動が生まれる拠点としての役割も求められました。さらに、誰もが安心して過ごせる居場所として、幅広い世代が気軽に訪れられる図書館が期待されました。ビジョンとして「現在と過去の中継地点」を掲げ、地域の歴史や文化を次世代へつなぎ、世代を超えた交流を育む魅力ある図書館を目指すことが提案されました。

付箋に書かれた意見 / 全件掲載

※黄色・ピンクは付箋色
※付箋意見をそのまま掲載（読みにくいところは一部改変）

本を通した交流

- いろいろな人と交流
- 本を通じて世代を超えた交流
- やってみたい事を支えてくれるような
- 電子書籍から紙の本を読むきっかけに
- 書庫を冒険！
- 推し本のフレーズ掲示
- おすすめ
- おすすめ本を紹介

話して！司書さん♡

- 図書館の仕事を知りたい
- 桐生市の司書大賞
- 司書さんの実力発揮

第三の居場所

- 気楽に通える
- 勉強もできる　話もできる
- 気軽さ
- 気兼ねなく行ける
- ゆっくり本を読む
- 第三の居場所
- 市民の宝物
- 多目的スペース

イベント

- ミニアートギャラリー（展覧会）
- 映像（上映とか）
- 声のプロの読みきかせ
- ステージ
- 子どもとゴロゴロしたり　よみきかせ
- 子供にやさしい

文化革命

- 自分の好きな事　文化ともつながれる
- フロンティア
- 市の歴史を後世へ残す場所
- 革命
- 織物日本一！
- マニアックな本がある
- 桐生にとって奇抜
- 文化を学びたい

GROUP D

VISION
どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」

市外から人が来るまち
市民が「桐生が好き」と思えるまち

MISSION
そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」

公園・駅から近い・イベントができる
学習・世代や人種をこえた交流
複合・アクティビティがある

CONCEPT
そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

多くの人が「自分と関係している」と思える施設





発表記録

「桐生を知る・好きになる」をビジョンとし、新しい図書館が地域への愛着や理解を深める場となることを目指しました。その実現に向けて、公園に近い立地を活かした環境づくりや、多様なイベント、学習環境の充実、世代や国籍を超えた交流、多様な活動に対応できる機能の重要性が挙げられました。また、「多くの人が自分と関係していると思える施設」をコンセプトに、幅広い世代が親しみを持てる図書館を目指すことが提案されました。さらに、高校生からは静かな学習環境や、新川公園と一体となった図書館づくりへの期待が示されました。

付箋に書かれた意見 / 全件掲載

※黄色・ピンクは付箋色
※付箋意見をそのまま掲載（読みにくいところは一部改変）

静かに勉強
- 大学受験の勉強
- ゆったり読書 または作業
- ゆっくり、静かな空間
- 誰もが学習に集中できる環境

桐生を知る・好きになる
- 市民が桐生を好きと思える。誇れるようになる一助
- 桐生の良さのけいしょう
- 桐生を知る。理解する。助けてくれるエリア（郷土資料とか）

交流
- サークルの会議みたいなあつまり
- 1人でなくグループで集まって本を読む
- 友達と本に関係のない話ができる
- 様々な国籍の人たちと一緒に利用したい
- 幼児・シニアが自然に交流できる こどもが遊ぶ・卓球 シニアスペースが一体的な空間にある
- 群大生→子供 勉強教えて
- リラックスできる場所
- 軽食みたいなおやつを食べること

アクティビティ
- カルチャースクール（無料）
- ダンス発表会
- 子供達の工作系ワークショップ
- 新川公園と共にコンサートなどをしたい
- 市外からも学生が集まる所
- 景色の良い席（公園を眺めながらとか）
- シンボル的な人が集まる場所
- 桐生以外の人にうらやましがられたい自慢の図書館
- 市外からも行きたいと思う場所

蔵書
- 人気マンガの原作の小説などがあってほしい
- 新たな本との出会い
- 蔵書数が多くて良い
- 本の並びが見やすい、手に取りやすい

建物
- ホール
- 今のより高い天井
- プラネタリウム
- カフェ

カテゴリなし
- 多くの人が自分と関係してると思える施設

GROUP E

VISION
どんな桐生にしていきたい？「目指す未来」

いろいろな年齢層の人が活躍する



MISSION
そのために図書館はどうあるべき？「果たす役割」

全ての地域の、市民活動のハブになる

CONCEPT
そんなみなさんの想いを表す「キャッチフレーズ」

上手に小さくなっていく図書館 ～人口が減っても大丈夫！～



発表記録

「いろいろな年齢層の人が活躍する」をビジョンに掲げ、図書館が市民活動や交流を支える拠点となることが期待されました。また、桐生の文化や歴史に触れられる場として、市民だけでなく観光客も地域の魅力を知り、親しめる施設であることが望まれました。さらに、人と人との交流や交流人口の創出につながる役割も期待されました。施設整備にあたっては既存施設との連携を重視し、地域全体で機能を補完し合うことの重要性が示されました。また、将来的な人口減少を見据え、用途や機能を柔軟に変更できる持続可能な図書館づくりが提案されました。

付箋に書かれた意見 / 全件掲載

※黄色・ピンクは付箋色
※付箋意見をそのまま掲載（読みにくいところは一部改変）

ほしい機能

- TSUKURUNの併設
- ホール機能
- 利用する目的に応じたゾーニング
- 書店との連携
- 群大の蔵書検索、システムと連携を取れてたらうれしい
- 階段の登り降りをあまりしないといい
- 群大図書館との連携
- コワーキングスペース
- 子ども連れでも気軽に利用するその場に居られる
- 知りたいことがちゃんと知れる
- 新聞資料等のアーカイブ
- 飲み物を飲みながら読書する
- ゆっくりデスクワークしたい
- 移動図書館
- 視聴覚資料の個人利用ルーム
- 視聴覚資料をみられるイベント
- 群馬大学にも図書館はあるから、そことの差別化ができた施設

文化・歴史

- 歴史的資料の保管場所とか（桐生市図書館しかないにものもある）
- 史料の置き場
- 桐生の歴史を知る。
- 文化活動の拠点
- 郷土研究

交流

- 観光の拠点
- “織都桐生”案内人の会のガイド映像の保存・閲覧
- 今：敷居が高い 新：気軽に寄れる
- まちなかの人とイベントをできると
- 多層的な年齢が利用する場所
- 本読まない人も近づける
- 市民の交流
- 年齢層の高い方の憩いの場 のイメージがあります
- いろいろな人と出会える
- 図書館固有の役割や意味以上のものを持った施設として利用したい。

立地

- プラネタリウムがある珍しい図書館
- 電車の待ち時間に使える
- 1つの場所だけにするのではなく、分散してくれているとうれしい
- 新里や分館を盛り上げてほしい
- 公園と一体でくつろぎたい
- 駅近・公園 市内に憩いの場
- 駅併設の施設があるとうれしい

第１回ワークショップの振り返り

新しい図書館について、参加者からは様々な姿が描かれました。静かな環境で本を読んだり、勉強に集中したいという意見がある一方で、友達と話したり、イベントやワークショップに参加したり、世代を越えて交流したりと、人が集まり、活動が生まれるアクティブな場所を求める意見もありました。

また、カフェで本を読む、公園を眺めながらゆったり過ごす、子どもと一緒に過ごす、一日滞在するといった、図書館を日常の中の居場所として捉える声も聞かれました。図書館単独ではなく、ホールやプラネタリウム、カフェ、コワーキングスペース、子どもの遊び場など、様々な機能をあわせ持つ施設を求める意見も出されました。

立地についても、市内・市外の誰もがアクセスしやすい駅前や駅に近い場所を望む声がある一方、公園と一体となり、自然や景色を感じながら本を読んだり、くつろいだりできる場所を望む声もありました。

さらに、桐生の歴史や織物などの文化を知り、次の世代へつないでいくこと、大学や学校、まちなかと連携すること、市外からも人が訪れる場所にすること、分館や移動図書館を含め地域全体で図書館を考えることなど、建物の中だけにとどまらない様々なアイデアも挙げられました。5つのグループからは、それぞれの過ごし方や立場から、これからの桐生市立図書館について多様な意見が交わされました。

アイスブレイク記録 「あなたにとって図書館とは？」

→ワークショップの前後で変化があった人は、その変化も記録

子供と一緒に行く場所
→子供だけでなく
様々な人にとって重要となる図書館

情報をしぼって集中する場所
→多様化する図書館

たくさんの蔵書
→基本的には図書館は蔵書の豊富さが
一番と思いますが、それ以外の空間や
何かがあってもいいと思いました

桐生市のとってのシンボル的なもの
本を読むよりホールを使用する

知の宝庫！！
※翻訳者でジャンル問わず調べものをします。
古い本も新しい本もある。

静かに勉強できる場所

生活の窓口

となりの本に出会える
→新しい人と出会える

ワクワクするところ

自分の時間を過ごせる場所

超マニアックな専門書をみたい

来るものを拒まない安らげる場所

心のバロメーター

勉強に集中できる場所
→人との関係をつくるところ

学び・情報

お友だち（本）の家
※本が友達なのでふらっと遊びに行ける楽しい場所

世界を広げる場所

わくわくするところ・なんかいいところ
→まちづくりのベースになり得る
なんでもできる

小学生は意外と本を読む
→I ♡ 桐生

今回のワークショップで出された様々な意見を、今後の基本構想・基本計画の検討につなげていきます。
次回のワークショップでも、これからの桐生市立図書館について、さらに考えていきます。

今後の予定

第２回　2026.11.01（日）　9：30～12：00
第３回　2026.12.10（木）18：00～20：30